

南区道德学区

震災避難行動マップ

この避難行動マップは、大規模地震が発生した場合を想定して、道德学区のみなさんが、緊急避難に役立つものについて話し合いました。これを元に、「いざ」という時にどんな行動をとればよいか日頃から考えておきましょう。

名古屋市の被害想定

予想される津波は、金城ふ頭に最短で96分で到達、道德学区では最大3mの浸水が想定されています。
また、津波は12時間程度続きます。非常持出品を持って、津波到達前に避難が完了できるように、あらかじめ避難経路を確認しておきましょう。

縮尺 1 : 4,200

0 100 200m



町内会の一時集合場所

災害ごとに適した避難先へ

<津波のおそれがある場合>
浸水想定区域外へ避難するか、間に合わない場合は津波避難ビルなど3階以上の丈夫な建物へ避難
<津波のおそれがない場合>
・震災火災のおそれがある場合 広域避難場所に避難(道德公園、忠道公園など)
・地震の揺れで自宅が危ない場合、小・中学校グラウンド(道德小・大江中)や広域避難場所に避難

※指定避難所は、津波や火災などの危険がなくなったあと、自宅で生活できない場合に一定期間、避難生活を送るところです。

凡例

	津波避難ビル
	広域避難場所
	指定避難所
	地域防災協力事業所
	公衆電話 NTTが設置する公衆電話は、災害時に優先的につながります。
	学区境界線

道德

津波避難ビル一覧

番号	名称
①	道德小学校
②	大江中学校
③	道德保育園
④	医療法人名南会 名南病院
⑤	(株)ジョウナン 本社ビル
⑥	真栄マンション第二泉楽
⑦	ニューコーポ堤
⑧	三浦マンション33
⑨	カワキタビル
⑩	真栄マンション泉楽
⑪	県営七条住宅1~3棟

地域防災協力事業所一覧

番号	名称	支援内容
A	有限会社七福湯	入浴の提供
B	松屋産業株式会社東温泉	入浴の提供
C	ネットヨタ愛知株式会社南陽通店	一時避難場所の提供、資機材の貸し出し
D	道德温泉株式会社	入浴の提供
E	サンシャインKYORAKU南	一時避難場所の提供、消火器の貸し出し
F	大興板金工業株式会社	一時避難場所の提供、資機材の貸し出し
G	ビバモール名古屋南 スーパービバホーム名古屋南	一時避難場所の提供、飲料水の供給、トイレの開放、災害時携帯電話充電サービス
H	ビバモール名古屋南 ケーズデンキ名古屋南店	飲料水、カップラーメンの提供
I	ビバモール名古屋南 平和堂ビバモール名古屋南店	乾電池の提供

津波避難のポイント

- 1. 徒歩で避難を**
原則、車で避難しない。車での避難は渋滞を引き起こし、かえって避難の妨げになる。
- 2. 海岸や川沿いには近づかない**
地震の後は、護岸や堤防が被害を受けている可能性がある。非常に危険なので近寄らない。
- 3. 寄り道はしない**
津波からの避難は一刻を争うため、家のことを心配して引き返したり、貴重品などを取りに戻ったりせず、周囲に声をかけながらまっすぐ避難先に向かう。

もし南海トラフ巨大地震が発生したら

南海トラフ巨大地震は30年以内に起こる確率が70～80%といわれています。道徳学区は津波の浸水が想定される地域です。名古屋港への津波到達時間は最短で**96分**と予測されており、遡上はその後から始まります。この時間を最大限に使い、みんなで助け合い避難しましょう。

わが身の安全確保

頭を守って、タンスなど倒れてきそうなものから離れて、揺れが収まるまで様子を見る

火の始末は慌てずに!

まずは身の安全!大きな地震の場合は、揺れが収まってから、落ち着いて消しましょう
天井に燃え移るほど火が大きくなったら避難をしましょう



地域で助け合い

共助

揺れが収まった

自助



地震発生!

日頃から家具の転倒防止対策を行おう!

固定していない家具は倒れて怪我をする恐れがあるだけでなく、避難経路も塞いでしまう可能性があります。大きな家具・家電などの転倒防止に努めましょう。



避難の準備をしよう!

- ・自宅や周辺の状況確認
- ・テレビやラジオで情報収集
- ・ヘルメットを準備
- ・ガス、水道の元栓を閉める
- ・電気のブレーカーを切る
- ・非常持出品の準備
- ・出口の確保
- ・タオルを玄関などにかける

タオルを使った安否確認

助けが必要な人をすばやく救助するために、タオルで意思表示をお願いします。
道徳学区ではタオルの掲示がない家庭を優先して安否確認を行っていきます。大地震が起こったそのとき、自宅にいる人に救助の手が必要であれば、玄関や門扉などの確認しやすい位置にタオルの掲示をお願いします。



ご協力をお願いします!

浸水想定区域外や津波避難ビルへ

大津波警報発表!
避難勧告発令!



一人では逃げられない方への対応

過去の災害では、周囲からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、高齢者や障がいのある方などの避難行動を早めました。日頃から一人で逃げられない方を把握し、地域みんなで、いち早く避難行動が取れるよう協力しましょう。

情報の入手や判断が難しい方

例えばこんな方

目が見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障害のある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など。

対応方法



やさしい言葉でゆっくり声かけ

メモや身振り手振りで伝える

移動が難しい方

例えばこんな方

普段、杖・押し車・車椅子などを使っている人、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど。

対応方法



複数で手伝う 身近にあるものを利用する

隣近所で助け合い!

阪神淡路大震災では、要救助者のうち約8割が地域住民によって命を救われました。救助活動でひとりでも多くの人を救うために、地域みんなで協力して助け合いましょう。各町内会では一時集合場所(活動拠点)を設定し、安否確認情報や被害情報を集約します。集めた情報や限られた時間を最大限、有効に使いましょう。裏面にあなたの町内の一時集合場所を記入しましょう。

